

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>確かな学力と意欲・志、さらには、高いコミュニケーション能力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する学校。地域に根付いた地域に愛される学校をめざす。</p> <p>1. それぞれの学力向上（「わかる、楽しい、規律ある授業」の展開、基礎的・基本的学力の定着、進学に向けた学力の向上）</p> <p>2. コミュニケーション能力の向上</p> <p>3. 地域連携の推進</p>

2 中期的目標

<p>1 学力の向上（学ぼうとする力の育成）</p> <p>(1) 本校生徒にとって『授業のIT化（以下UD授業）』『楽しい授業』『規律ある授業』が行えるように、教員の授業力を向上させる。</p> <p>ア 本校勤務年数が少ない教員への日常業務を通じた指導法の継承(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行う。</p> <p>イ 教員相互の授業見学や研究授業を積極的に行う。</p> <p>ウ ICTを活用し、授業改善と業務軽減を行う。すべての教員がプロジェクターを活用できるようにする。</p> <p>他校での研究授業への参加と、各教科での研究授業の実施（各教科2年間で1回）</p> <p>生徒による学校教育自己診断において「授業が分かりやすい」という項目に対する肯定的な割合（強く思う、ややそう思う）を80%以上にし、維持していく。（H30年度65%）</p> <p>授業アンケート「授業内容に興味関心を持つことができた」の項目を3.5ポイントに向上させ、維持していく。（H30:3.35）</p> <p>(2) 生徒の学習習慣を確立させることを通して、学習意欲を向上させる。</p> <p>ア 生徒が放課後に校内で勉強できる場（自習室・図書室）を整備し、教員が生徒の個別指導を行える体制をつくる。</p> <p>日々の放課後に自習室・図書館を利用して学習する生徒がいる状態にする。</p> <p>イ 読書習慣の確立。</p> <p>ウ 遅刻防止（前年比20%減をめざす）</p> <p>エ ICTを活用し年度末の成績不振（欠席30日以下の生徒）による留年者0をめざす。</p> <p>(3) 生徒一人ひとりの進路目標に合った学力（それぞれの学力）を育成する。</p> <p>ア 義務教育段階の学力修得を目的とした茨田検定（振返り学習）・「基礎教養講座」や、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。</p> <p>イ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、授業以外の講習などを積極的に実施する。</p> <p>ウ キャリア教育の実践として生徒の進路に応じた講座を充実させ、進路希望を実現させる。</p> <p>生徒の基礎学力を向上させることで、1年生・2年生の進級率を上げ、平成31年度には1年生85%2年生95%にし、維持していく。（H30年度1年70.5%・2年92.6%）</p> <p>進路決定未定者の割合について10%以下を維持していく。（H30年度9.6%）</p> <p>UD教材の研究。茨田検定においてプロジェクターを利用した解説教材の活用。</p>
<p>2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出</p> <p>(1) 生徒のコミュニケーション能力向上を図ることにより、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。</p> <p>ア 教員のコミュニケーション指導力を充実する。</p> <p>イ 生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>ウ 教職員ピアリング（以下「PM」）研修を実施し、PMの理解促進及び普及を図る。</p> <p>エ コミュニケーションの内容をより充実させ、コミュニケーション能力の更なる向上をめざす。</p> <p>オ 英語によるコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図る。（International Day ,プレゼンテーションを意識した英語授業）</p> <p>カ 面接指導等の進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>キ 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。</p> <p>ク 障がい者に対する理解があり、思いやりがある人を育てる。</p> <p>作成した「PM」のテキストを、校内で活用する。他校、外部機関からの見学を積極的に受け入れる。</p> <p>志学や道徳教育との関連性を重視した独自のコミュニケーション教育を構築する。</p> <p>学校教育自己診断にコミュニケーション能力に関する項目を入れ、80%以上の生徒がコミュニケーション能力の向上を実感できる学校にする。（H30:64.4%）</p>
<p>3 地域連携の推進（地域の人と楽しむ学校）</p> <p>(1) 地域連携を通じた生徒の成長</p> <p>ア 地域の活動に参加する。</p> <p>地域の活動への参加回数を維持する。（H30年度11回）</p> <p>イ 地域の人々を学校に招聘する。</p> <p>体育祭や文化祭、茨田高校フェスティバル（地域交流イベント）を活用して地域の人々を学校やイベント会場に招き、交流を持つ。</p> <p>中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の開催。</p> <p>(2) 広報活動の充実</p> <p>ア HPの充実</p> <p>HPを1週間に1回の頻度で更新する。</p> <p>イ 学校説明会の充実</p>
<p>4 教員の資質の向上</p> <p>上記中期目標1～3を実践し教科専門性が高く、生徒に寄り添い課題を解決できる教員を育てる。</p> <p>学校教育自己診断「教員の指示に納得ができる」の項目で肯定的な回答80%をめざす。</p> <p>授業アンケートで「授業を受けて知識技能が身についた」の項目で平均3.5ポイント以上をめざす。</p> <p>ICTを活用し教材の共有をはかり、長時間勤務解消につなげる。月80時間以上の超過勤務の解消をめざす。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>(1) 生徒向け診断</p> <p>・昨年の結果と比較して大きく変化した項目はほぼない。</p> <p>・授業に取り組む姿勢に関する項目に減少がみられた。個人個人に対するアプローチを考えるとともに、教職員も「生徒が主体的に取り組む授業」を実践できるように研究を進めていく必要がある。（H30 86.6% R1 79.7%）</p> <p>・生活指導（服装や遅刻指導など）に関する項目に上昇がみられる。日々の粘り強い指導が、少しずつ生徒に伝わり、理解が進んでいるのではないかと考えられる。</p> <p>(2) 保護者向け診断</p> <p>・生徒に対する理解に関して肯定的回答が増加している。教職員の丁寧な指導が保護者にも伝わっているのではないかと考えられる。</p> <p>・服装や頭髪指導などの生徒指導方針に理解・共感を得ることができていることがうかがえる。特に遅刻指導に関する内容は大幅な上昇がみられた。（H30 82.5% R1 91.3%）</p> <p>・保護者の学校行事等の参加に関する項目で減少がみられる。保護者が参加しやすい日程・内容を検討する必要がある。（H30 49.2% R1 43.5%）</p> <p>(3) 教職員向け診断</p> <p>・学習指導計画に関しての項目で、肯定的回答が増加している。教科内での情報共有が積極的に行われていると考えられる。</p> <p>・校内研修に関しては、生徒が変化中、研修内容や開催時期などを検討する必要がある。</p>	<p>令和元年度については、学校運営委員会を3回実施。</p> <p>第1回（6月13日実施）学校経営計画の確認と今年度の取組みについて説明。授業改善の方向性の確認、学校の特色をどう中学生とその保護者に伝えるか、若手教員の育成方法について意見をいただいた。</p> <p>第2回（11月7日実施）7月に実施した授業アンケートの結果報告、学校経営計画の進捗状況の報告、令和2年度学校経営計画(案)の内容のそれぞれについて説明を行い、意見をいただいた。次年度の学校経営計画(案)について、中学生とその保護者へのアピールの方法について意見をいただいた。</p> <p>第3回（2月20日）12月に実施した第2回授業アンケートの結果説明、学校教育自己診断アンケート（生徒用・保護者用・教職員用）の結果説明を行った上で、令和元年度の学校経営計画についての評価を説明した。</p> <p>さらに、令和2年度学校経営計画及び評価についても案を作成したものを説明し、ともに了承をうけた。生徒の状況が変化中、教員個々の力量を高める取組みの継続を、委員から求められた。また、保護者の参加の減少については、例年、保護者参加が多い体育祭について、今年度は雨天順延が続き、保護者参加数の減少に結びついた点について補足説明を行った。</p> <p>委員より、学校教育自己診断アンケートについては、質問数が適当か、質問の意図が伝わりやすいかなど、内容の精選を行い、調査意図をはっきりさせるよう助言を受けたため、次年度に検討を行うとした。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上	<p>(1)『UD 授業・楽しい・規律ある授業』を実現するための教員の授業力向上</p> <p>ア 本校勤務年数が少ない教員へのOJTの実施</p> <p>イ 研修・他校公開授業への参加 研究授業の充実</p> <p>ウ ICT を活用した授業改善と業務軽減とプロジェクターの積極的活用</p> <p>(2) 生徒の学習習慣確立を通じた学習意欲の向上</p> <p>ア 生徒が放課後に校内で勉強できる場(自習室・図書室)を整備したうえで、教員が生徒を個別指導できる体制をつくる。</p> <p>イ 生徒の読書習慣を確立する。</p> <p>ウ 生徒の遅刻を減らす。</p> <p>エ ICT を活用し成績不振による留年を防ぐ</p> <p>(3) 生徒個々の進路目標に合った学力を育成する。</p> <p>ア 義務教育段階の学力習得を目的とした「茨田検定(振り返り学習)」「一般教養講座」習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。</p> <p>イ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、放課後等の講習を積極的に実施する。</p> <p>ウ 生徒の進路に応じた講座を充実させ、進路希望を実現する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・担当首席を中心に管理職や分掌長等が講師となって、若手育成に当たっている研修組織(青葉会)の内容の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校勤務年数が少ない教員に対して、年度当初に授業規律の確立を重点的に指導する。 年度当初に、エバ-サレザインの視点に即した教室整備を行う。 生徒の家庭環境を知り、それに合わせた指導を行えるようにする。 生徒が納得感を持つ生徒指導を行うため、毎週の学年会、生指部会で指導状況の確認、点検を行う。 <p>イ・各教科2年間に1回研究授業実施。他校や外部での授業力向上に関連する研修、公開授業、に積極的に参加し、その成果を校内で共有。</p> <ul style="list-style-type: none"> UD 授業の取組みを実施することで、本校生徒の理解がより深まる授業を行う。 <p>ウ・校内の視聴覚機器、大型プリンター等を活用して、UD 授業の視点に立った教材作成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒による学校教育自己診断の結果を検証して授業力向上へ結びつける方策を確立する。 <p>(2)</p> <p>ア・考査前、考査中の自習室と図書室への教員常駐。生徒に対する個別学習指導にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期考査前の学習や長期休業期間後の課題学習など、特定の時期に応じた生徒の個別学習を充実させるように、各教科が教材準備や指導を行う。 授業開始後に「振り返り」「漢字」「計算」などの10分間の小テストを実施。全教科開始後5分の規律指導を実施。 <p>イ・毎日の終礼、総合的な学習の時間、LHR、基礎教養などの時間を利用して、年間を通じた「10分間読書」活動を企画実施する</p> <p>ウ・遅刻の回数に応じて、担任、学年主任、首席、教頭、校長による説諭を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻の回数に応じて、学年による放課後清掃指導等を行う。 <p>エ・年度末成績不振(欠席30日以下の生徒)による留年を0にする。</p> <p>(3)</p> <p>ア・「茨田検定」のICT化。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績不振者への指名補習、個別指導を充実させる。 <p>イ・2・3年生で学業成績に基づくクラス編成を実施し、成績の推移を分析しながら、各授業で生徒の学力向上をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部機関の資格試験(漢検・英検・P検(パソコン検定・数検)等)を活用して、生徒の学力向上とキャリアアップを図る。 発展・応用的学力の習得をめざす講習を、1年生から実施する。 <p>ウ・進学希望者に対して、進路希望に応じた多様な講習を1年生から実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職希望者に対して、インターンシップや試験対策講座を2年生から実施する。 進路ガイダンスの充実 急な進路変更に対する対応 	<p>(1) 授業アンケート「授業内容に興味関心を持つことができた」の項目が3.5ポイント以上。(H30:3.33ポイント)</p> <p>ア・青葉会の研修を年間で12回実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度当初の授業見学において、次の2点を重点的に指導する。 <p>《授業規律》 生徒の机上の整理整頓</p> <p>《エバ-サレザイン化》 教室掲示物・板書状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎週学年会を開催し点検事項の確認を行う。 青葉会と週一回の学年会開催で情報共有 「学校生活において先生の指導は納得ができる」80%以上をめざす。(H31:61.0%) <p>イ・各教科研究授業の実施とその後の研究協議を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末に授業力向上研修を実施し校内での共有化を図る。 <p>ウ・生徒による学校教育自己診断において「授業が分かりやすい」という項目に対する肯定的な割合を80%以上にする。(H30:65.0%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・自習室を考査前、考査中には毎日開室。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断の「日常的に放課後学校で学習したり、家庭で学習している」の項目に肯定的な答えを出す生徒の割合を60%にする。(H30:42.0%) 英数国で小テスト実施。 <p>イ・「10分間読書」を年間で10日実施する。H30:10日</p> <p>ウ・年間遅刻総数を5000人以下に減少させる。(H31:5664名)</p> <p>エ・全教員がプロジェクターを使用した授業ができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成績不振留年 <p>(H30:1年9、2年2、3年0名)</p> <p>(3)</p> <p>ア・茨田検定で解説・解答にプロジェクターを活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 各中間考査後と夏季・冬季休業期間中に、座学教科で成績不振者への指名補習を実施する。 1年生85%、2年生95%の進級率をめざす。(H30:1年70.5% 2年92.6%) <p>イ・1・2年生全員が英検・漢検いずれかを受験するよう指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> H30 全員受検 各種外部機関の資格試験合格者を増加させる。(H30年度の総合格者264名) <p>ウ・進学、就職希望者対象の各種講習について、開講講座数確保</p> <p>(H30:開講講座数17講座280名)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路決定未定者の割合を10%以下にする。(H30年度14名9.2%) 進路HRを1年7回、2年5回、 	<p>(1)ア)若手育成は青葉会を中心として行った。また、授業規律・UD化についても、一定の成果が表れている()</p> <ul style="list-style-type: none"> 『授業内容に興味関心』は、やや減少(R1:3.24ポイント)() 学ぶ意欲を高めるよう、さらに授業改善を進めていく。 毎週の学年会で、情報の共有を図る() 青葉会の年間を通じた計画的な実施で、育成の努めた() 『先生の指導に納得』は、やや増加(R1:65.9%)() 改善はみられるが、さらに努める。 <p>イ)今年度は実施形態を変え、4教科について公開研究授業を実施()</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末には、授業力向上化研修を開催し、共有化を行った() ビデオ撮影したものを共有し、意見交換に活用した。 <p>ウ)「授業が分かりやすい生徒」と答えた生徒の割合は大きな変化なし(R1:65.6%)()</p> <p>改善はみられるが、さらに取組みを進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自習室の開室で、学ぶ意欲の高い生徒や、学習支援が必要な生徒への対応を行った() 放課後学習の割合は、ほぼ横ばい(R1:43.3%)() 働きかけをさらに丁寧に行い、改善する。 英数国の各教科で、授業の始めなどに小テストを実施し、学習の定着に努めた() <p>イ)読書の習慣化で、文字に対する親しみを増す取組みを、計画的に行った()</p> <p>ウ)年間遅刻者は、延べ6887名()</p> <p>エ)授業内容を視覚からも伝えられるよう、授業でのプロジェクター使用を進めた()</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠席30日未満の者で成績不振による留年には至らなかった。() 意欲を高める工夫を行い、減少に努める。 <p>(3)</p> <p>ア)指名補習の実施()</p> <ul style="list-style-type: none"> きめ細かな指導に努めたが、進級率は横ばい() (R1:1年71.1% 2年86.4%) 個別の生徒への働きかけをより丁寧に行い、改善していく。 <p>イ)漢検・英検の全員受検()</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格試験総合格者(R1:175名)() <p>ウ)開講講座数(R1:13講座170名)()</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路未決定者の割合(R1:15名10.7%)() 進路HR (R1:1年8回、2年5回、3年5回+基礎教養)()

		卒業後の離職、退学者の防ぐ	3年5回+基礎教養(毎週)を実施	
2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出	(1) 生徒のコミュニケーション能力向上を図ることにより、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。	(1) ア・定例のコミュニケーション委員会とコミュニケーションコース担当者会議で、生徒のコミュニケーション能力向上の取組強化対策を立案する。 ・教員それぞれが、生徒のコミュニケーション能力向上のための取組を行い、その内容と効果を集約して全教員で共有するとともに、特に優れた取組については本人によるプレゼンを行い、全体化することで、教員のコミュニケーション指導力を向上する。 ・PMの技法を応用し、自分を大切に、他者を理解することをベースとした生徒指導を展開する。	(1) ア・コミュニケーション委員会を年20回以上、コミュニケーション担当者会議を年5回(年度初め、各学期、年度終わり)開催 (H30:25回・5回) ・職員会議で教員による「コミュニケーション能力向上取組プレゼン」を年1回実施。 (H30:1回)	(1) ア)コミュニケーション会議等を丁寧に行い、教員全体のスキルの向上の努めた (R1:委員会17回、会議2回)() 年度末の感染症への対応や個別事象への対応を丁寧に行ったため、開催回数が減った。 ・教員による取組み(R1:1回)()
	ア 教員のコミュニケーション指導力を充実する。			
	イ 生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。	イ・校内の「あいさつ通り」を活用し、集会時、授業時でのあいさつ指導とともに全校的な指導を徹底した上で、その効果をアンケートで確認する。 ・コミュニケーションをテーマとしたホームルーム(「コミュニケーションHR」)を実施し、志学と連携したコミュニケーション教育を充実する。 ・校外のイベントへの参加 ・月1回の朝礼で校歌斉唱	イ・25項目のコミュニケーション能力アンケートを年2回実施し、20項目以上で肯定的な回答の数値80%以上。 H30(20項目) ・コミュニケーションHRを年3回実施。 ・人権文化交流会における発表	イ)生徒のコミュニケーション能力向上 (R1:19項目)() 改善は進んでいるが、わずかに下回った項目が増えた。 ・コミュニケーションHR(R1:3回)()
	ウ 教職員PM研修を実施し、PMの理解促進、普及を図る。	ウ・「PM」のテキストを活用し、教職員PM研修を校内で実施し、校外にも普及を図る。	ウ・教職員PM研修を校内で年1回実施。(アの内容を含む) (H30:1回) 積極的な学校見学受入	ウ)教職員PM研修実施(R1:1回)() ・積極的見学受け入れ() 教職員向け公開授業と研究者の受入れ実施
	エ 『コミュニケーションコース』の学校設定科目「コミュニケーション総合」「PM」「PM」の内容をより充実させる。	エ・「コミュニケーション総合」で落語家などの著名人や大学教授等を招き、充実したコミュニケーション教育を継続する。 ・「PM」「PM」の授業内容を整理し、教材及び指導方法を確立、継承する。 ・「PM」「PM」履修生徒の中からNPO法人シヴィルプロネット関西によるメディアエーター認定試験の合格者を出す。	エ・コミュニケーションコース選択生徒アンケートで「コースで学んで話し方や行動が変わった」と答えた生徒の割合を80%以上 (H30年度94.9%) ・「PM」「PM」を担当できる教員を養成し、2名以上確保。 (H30年度2名確保) ・メディアエーター認定証取得者を増やす。 (H30:7名)	エ)コースを選ぶことで行動等が変化 (R1:89.7%)() ・PM担当者の育成(R1:2名)() ・認定資格取得者(R1:2名)() 選択者の減少で、増やすことが難しかった。
	オ International Day・授業でのプレゼンテーションを実施し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。	オ・International Dayの実施。 ・1年生英語会話、3年生実用英会話の授業でのプレゼンテーションの取り組み	オ・International Dayの実施。 (H30年11月実施) ・各学年授業でのプレゼンテーション。	オ)R1年11月に実施し、参加した生徒は、留学生との交流を楽しむ事ができた() ・プレゼン取組み() 英語会話等の授業内で実施
	カ 進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。	カ・生徒が職場訪問し、職場の人とコミュニケーションを取る機会を増やす。	カ・学校幹旋就職希望生徒全員に応募前職場見学の実施 (H30:138社 302名) ジョブインターンシップ実施 (H30:11社 18名)	カ)応募前職場見学参加者 (R1:117社 213名)() ・インターンシップ参加者 (R1:4社 6名)() 希望者については、全て対応を行った。
キ 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。	キ・体験入部等年度当初の新入部員獲得に向けた行事の充実。 ・地域連携を活用した部活動の活性化。 ・文化部の発表の場として、近隣中学や住民を招待したイベント「茨田高校フェスティバル」の開催。 ・「部活動の日」(毎週金曜日/生徒、教員共に、部活動への参加を促す取組み)のさらなる充実。	キ・入部率を50%にする。 (H30:27%) ・茨田高校フェスティバルを年に1回開催(H30はH31年2月に実施)	キ)部活動入部率(R1:28%)() 変化する生徒の希望に、できるだけ柔軟な対応を行い、加入率のアップに努める。 ・茨田高校フェスティバルの開催() 花博会場で実施し、地域の方などが参加	
ク 合理的配慮ができる人を育てる。	ク 高齢者施設・障がい者との交流の場の設定、障がい者差別解消法の趣旨を理解させる。	ク・年1回の交流実施 ・生活福祉の授業での施設交流 (H30:5回)	ク)施設交流の実施(R1:6回)() 知的障がい者や視覚障がい者との交流会の実施や、高齢者介護施設での実習などを行った。	

府立茨田高等学校

3 地域連携の推進	<p>(1) 地域連携を通して生徒の成長を促す</p> <p>ア 地域活動に参加する。</p> <p>イ 地域の人々を学校に招聘する。</p> <p>(2) 広報活動の充実</p> <p>ア HPの充実</p> <p>イ 学校説明会充実</p>	<p>1)</p> <p>ア 地域活動への参加回数を維持する。</p> <p>イ 体育祭や文化祭、茨田高校フェスティバルを活用して地域の人々を学校や行事に招き、交流を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の回数を増加させる。(H30年度2回) ・今年度もPTA文化教室に地域の人々の参加枠を設ける。 <p>(2)</p> <p>ア HPを1週間に1回更新する。災害時の対応、行事、授業参観案内をプリント配布と共にHPに掲載し保護者にも周知。</p> <p>イ 本校での説明会と共に地域や中学校での学校説明会へ積極的に参加する。中学校訪問、学校案内送付の充実</p>	<p>1)</p> <p>ア 地域活動への参加回数 (H30:11回)</p> <p>イ 近隣住民に広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間3回以上の開催。(H30:2回) ・年1回の実施。(H30:1回) <p>(2)</p> <p>ア 1週間に1回の更新を維持する。(H30年週1回更新)</p> <p>イ 本校での説明会以外に地域や中学での説明会参加回数を維持。申し出があれば断らない。</p> <p>6月に全教員で近隣中学校訪問</p>	<p>(1)</p> <p>ア) 地域活動への参加 (R1:10回) ()</p> <p>イ) 茨田カップの開催 (R1:3回) ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA文化教室への地域参加 (R1:1回) () <p>(2)</p> <p>ア) 月2回程度のHP更新を実施 ()</p> <p>イ) 説明会の積極的開催 ()</p> <p>府全体1回、学校開催5回開催。要望があれば必ず参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なお、近隣中学校への訪問は、9月・10月に行った。
4 教員の資質の向上	<p>中期目標1~3を実践し教科専門性が高く、生徒に寄り添い問題を解決できる教員を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中期目標1~3の実践。 ・各教員が外部研修等の内容伝達を職員会議で行い、全教員が共有できるようにする。 ・プロジェクト活用マニュアルの充実をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「教員の指示に納得ができる」の項目で肯定的な回答80%をめざす。(H30:61.4%) ・授業アンケートで「授業を受けて知識技能が身についた」の項目で平均3.5ポイント以上をめざす。(H30:3.36ポイント) ・ICTを活用し教材の共有をはかり、長時間勤務解消につなげる。月80時間以上の超過勤務の解消をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『先生の指導に納得』は、やや増加 (R1:65.9%) () さらに改善に努める。 ・「知識技能が身についた」と答えた生徒は昨年とほぼ変わらなかった。(R1:3.26ポイント) () さらに授業改善を進める。 ・超過勤務者は、H30年度に比べて減少した。(昨年比22%減) ()